

ケア・カフェ奥州
会報

ムーン・ライト

ケア・カフェ奥州委員会

岩淵 睦子、小野寺 美緒
吉田 由美、渡邊 久子
福地 善教
文責 中目 祐幸

対話から生まれるより良い社会を目指して！

ケア・カフェ奥州は語らいの場です。医療、福祉関係者や有志の方々が隔月（奇数月第3木曜日）に集まり、テーマに沿って自由に言葉を交わします。ルールは一つだけ、人の話を否定しないことです。コーヒーやお菓子を味わいながら、笑いや共感で時の経つのを忘れてしまうことも……。新たな出会いが、日常に輝きをもたらすかもしれません。

本会は4年前に有志5名で発足させましたが、一昨年、新執行部で再出発しました。

「語らいから連携が生まれる」を念頭に活動を展開します。しかし、連携が目的ではなく、そこから新

しい医療・介護支援や地域づくりへと繋がれば発展性のある語らいの場になると考えます。

新型コロナウイルス感染拡大により2020年7月より休会しております。再開の目途は立ちませんが、改めて対話の重要性を認識しております。そこで、紙面を通じて対話できるように話題を提供しようと実行委員で協議し発行に到りました。今後は、皆様の声を紙面に反映させたいと存じます。



会場アピア

連載エッセイ

Kさんとの対話 第1回 Kさんとの出会い
は、去年の春。突然だった。85才になるKさんは来局すると「私は元アマチュアゴルフ選手チャンピオンだ。」と話し始めた。ゴルフに興味がない私は驚きの声を挙げたが、その偉大さに気付かなかった。その後は訪れる度に体調はすぐれず、「もう十分に生きた」から「早く人生を終わらせたい」が口癖になっている。先日、薬の話を始めに切り上げて「ゴルフを人に教えたことがありますか？」と聞くと、背筋を伸ばし、静かに語りかけてきた……。 (つづく)



水沢公園桜の開花 4月8日撮影

桜の開花も・・・早まる

桜の開花が年々早まっています。今年は昨年より2日早い4月2日でした。20年前は火防祭の頃が満開だったと思います。これも温暖化の影響でしょうか？ これからは入学式に桜が定番になりますね。

今月テーマ 新病院建設から地域医療を考えよう

医療介護などの問題点を取り上げ、議論を深めて行きたいと考えます。筆者の主張をどのように捉え、自分なりに考える契機にしてください。

正解はありません。議論するように自分の考えを人に伝えることが大切です。

新病院設立が具体化

2021年3月奥州市から市立医療機関の再編成方針案が示されました。案では総合水沢病院、まごころ病院、前沢診療所を廃止し、2025年度中の開院を目指し新病院を建設する。新病院の機能として、医療と介護の橋渡しを担い、回復期機能だけでなく急性期機能や感染症対策など幅広く対応するとしています。

本計画に不安を感じている人も多い。医療関係者だけでなく、一般



市民もその動向に注目している。

「医療を考えるパパママの会」は3000人アンケートを実施し、その結果をもとに発言しています。今回の新病院建設案から将来の医療について考える機会にしたいと思います。問題点を整理してみます。皆様も当事者として新病院に何を望み、そして、これからの医療のあり方を考えてみましょう。

1 新病院の建設の背景

市立病院の状況 (新市立病院建設調査特別委員会資料より 2020年6月17日)

①常勤医師推移 (歯科を除く)

病院名	2018年	2020年	増減率
水沢	18	10	-44.4%
まごころ	10	8	-20%
前沢	1	1	0
衣川	1	1	0
合計	30	20	-33.3%

②患者数推移 入院

病院名	2018年	2019年	増減率
水沢	36,948	26,793	-27.5%
まごころ	14,094	12,479	-11.5%
衣川	2,153	1,897	-11.9%
合計	53,195	41,169	-22.6%

③患者数推移 外来

病院名	2018年	2020年	増減率
水沢	75,793	64,353	-14.7%
まごころ	52,915	51,111	-3.4%
前沢	7,796	8,508	9.1%
衣川	2,153	1,897	-9.4%
合計	156,143	142,010	-9.1%

水沢病院では医師の減少により、

小児科、整形外科が診療停止となり、医業収入も年々低下しています。昨年7月小児科医師着任により、外来が開設されたが、入院加療ができないため患者増になっていません。他の病院では新型コロナウイルス感染拡大で受診抑制の影響による自然減との見方があります。こうした事情を踏まえて、3病院の統合し新築移転する計画が浮上しました。

2. 問題点の整理

①新病院にどんな機能が必要か？

いつでも、どこでも、だれでも安心してかけられる医療を願う市民の声があります。しかし、安心してかけられる医療とは何を意味するのでしょうか。その答えは世代によって異なるような気がします。

周産期や小児期には急性疾患や治療可能な単一疾病によるため、近隣に高度先進医療を提供する医療機関が必要かもしれません。しかし、高齢者の疾患は慢性化、複雑化する。体調が悪化し、入院しても完治に到らない。さらに、日々の診療はアクセスしやすい「かかりつけ診療所」であり、大病院ではないと感じます。

②医療に依存しすぎていませんか？

そもそも健康とは何でしょうか？健康とは病気でないことではありません。世界保健機構の定義では

「身体・精神および社会的に良好な状態」とあります。健康は他人の評価ではなく、本人が自覚するものかもしれません。

病気が治るという意味の単語に「治療」があります。この言葉には2つの意味が含まれています。「治す」と「癒(いや)す」です。癒すには病は治らなくても精神的な安定を言い表しています。医療(医者)に求めるのは治であり、癒しは必ずしも医療でなくてもいいのではないかと。ましては大病院に癒しを期待するのは医療に対する過大な依存かもしれません。さあ、皆さまはどの様に考えますか？ご意見はメールでお願いします。

cafe@nakanome.biz
までお送りください。

次回のテーマは

今回のテーマに対する私見を通して医療についてさらに、議論を深めたいと思います。皆様から寄せられたご意見や編集委員のコメントを掲載します。そして、医療について、生活という視点から見える課題を整理してみようと思います。

連載コメント

コーヒタイムNo1
唐突ですが「ネルドリップ」って

ご存知ですか？片面が起毛された綿の濾し布です。紙のフィルターが普及した今日では珍しい部類になってしまいましたが、喫茶店の創成期はほとんどのお店がネルドリップでした。毎回、複数のコーヒーをネルドリップでお淹れしています。語らいの時間にちょっとした「豆知識」とともにお楽しみくださいませ。

(日本珈琲社 坂本匠吾)

日本珈琲社のご紹介



営業時間9~18時30分
(毎週木曜日定休)

〒岩手県奥州市水沢区宮下町25
TEL0197-25-2151
FAX0197-25-2152

編集後記

月明かりの夜にコーヒーとジャズに包まれて会話するひと時をイメージして会報名を「ムーン・ライト」にしてみました。

創刊することに意味を感じて、突然始めました。継続できるようにご協力ください。ではまた・・・